

地域福祉推進大会

主催：えびの市社会福祉協議会

〈大会の報告〉

令和4年7月21日、えびの市地域福祉推進大会を行いました。第一部「住民同士で支え合う地域づくり」という演題で、小林市より3名の方にご講演いただきました。第二部は、「これから地域でできそうなことを考える」というテーマで、市内4名の代表者の方にそれぞれの立場での発表と、意見交換を行いました。参加者約250名、参加者のアンケートからも地域でこれからの助け合いの仕組みづくりについて意欲的な意見をたくさんいただきました。

ご参加いただいた皆様方、新たな地域づくりへの第一歩として、その想いを行動に移しましょう！

〈アンケート紹介〉

- ・高齢化が進み、今後はさらに本日の講演のような活動が必要になってくると思います。自治会を中心に、1歩 歩み出す勇氣が必要。
- ・「できる人が、できる時に、できる事を、できるうちに」少しずつ住民同士で取り組む必要を感じました。

笑顔をつなぐ・心をつなぐ・暮らしをつなぐ地域づくり

基調講演
「住民同士で支え合う地域づくり」
小林市第1層生活支援コーディネーター
小林市社会福祉協議会 中本吉信 様
三助入隊 南西二区長 中村祐一 様
なごもやう会 南西の西區長 上野敦敏 様



公民館へ出かけます!!

地域の助け合い活動に興味がある自治会の方々、気軽に社会福祉協議会までお声かけください。

暮らしねっとサポーター養成研修のご案内

ボランティア・助け合い活動について興味のある方、学んでみたい方は、下記の日程で「暮らしねっとサポーター養成研修」を行います。個人や友人同士、地域での参加大歓迎！

日時：令和4年8月17日(水) 8月19日(金) 8月22日(月)

いずれも19時～20時30分 ※3日間とも参加できる方が対象です。

場所：えびの市総合福祉センター(社会福祉協議会) 2階 大集会室

申込先：えびの市社会福祉協議会 35-2800 担当：栗下

※コロナ感染予防に努めながら、開催いたします。

申し込み
待ってま～す！

第一部 演題「住民同士で支え合う地域づくり」

介護保険ではヘルパーさんにできること、できないことがあり、内容に制限がある。小林では市内3地区で買い物サロンを実施。社協デイサービス車両の日中の空き時間に自治会が車を活用。燃料代は無料。
現在、地区に生活支援の助け合いを推進。現在8か所。お礼の品を頂かない代わりに謝礼をいただく。市内一律に設定。
30分以内の軽微な作業は200円、他、1時間600円
地区の方がこの地域に住んで良かったと思える合意形成。社協がお手伝い。



小林市第1層生活支援
コーディネーター
中本吉信氏

わが地区は高齢化率 47.2%で、西小林で一番高い地区。立ち上げのきっかけは平成30年度より買い物サロンをスタートし、その方々が独居や近くに家族のいない方ばかりで生活に色々と困り事もあり、できることがあればお手伝いをするようになった。社協の協力で「ミニ助っ人隊」を立ち上げ、住民のちょっとした困りごとに対応。草刈り、簡単な剪定、雨どいの修理、清掃、買い物、電球の交換等。まず、自治会長に依頼があり、下見に行き、現場を見て、必要な作業人数を決める。簡単な作業は200円、エンジンを伴う作業は600円。領収カードが10枚たまったらティッシュ1箱と交換。

課題は高齢者が多くなり、家族も近くにいない方が増えている。親戚に連絡取れたら1年間分お金を預かり作業をすることも。

何をするにも旗振り役がいる。どうせするのなら楽しくやる。

**モットーは「できる人が、できる時に、できることを、
＋できるうちに！」**



小林市
南西二区 区長
「ミニ助っ人隊」
中村祐一氏

わが地区は人口減少、過疎化、高齢化が進んでおり、高齢化率は西小林で2番目。立ち上げのきっかけは、南西二区が先に作っており、自分の区の方が隣に相談されていた。区の話し合いで、自分のところでもやろかい！となった。内容は二区と同じ。私からは泥臭い話をしたい。

わが地区は、やる気のある人が多く、やりたいことも多くなり、ボランティアの範疇から超えてしまった。名前どおり、「なんでもやる会」ではあるが、線引きが必要と感じた。依頼が来たらすぐ返事をするのではなく、即答しないようにした。そのほうが後日、断りやすくなった。社協からこのような作業はボランティアではないと言われていて、断ることもある。

ある相談。夫が入院中とのことで、田植えの後の水の管理を相談され、やむなく入院中のみの対応とすることにしたが、本来はそこまでしたらいけないと思う。田畑の管理ができなくなった人も増えているが、田畑は本人の財産。ボランティアで対応する範疇を超えており、勝手にはできないため慎重な判断が必要。**継続する上では、できることを無理のない範囲で行うことが大切。**



小林市
南西一の西区 区長
「なんでもやる会」
上野貞敏氏

第二部 テーマ「これから地域でできそうなことを考える」



中上江地区自治会長
池田孝一氏

中上江地区は103世帯、高齢化率は50%超え。自治会長5年目。自治会長になった頃、助け合いの仕組みが必要になることを耳にしていたが、その時はそんなことが出来たらいいな？とそれくらいのことであった。4年経つと住民の方からの相談も増えてきた。また、これまで元気だった高齢者が身体に支障が出てきている。

20年以上続いている地域支え合い事業の延長で何かできないか？同じ自治会で住み育った者同士で自治会内でできることが一番良いと考える。**昔のような近所付き合いに戻すことが理想であるが、それも難しい。これからは、それに代わる仕組みが必要。**

湯田地区民生委員。湯田地区は高齢化率54.44%。元気な高齢者も多いが、見守り対象の方も20件ほどある。声かけ、安否確認、困り事の聞き取りなど、ゆっくり傾聴することが大切。その中で、ゴミの分別、ゴミ出し、免許返納後の外出などの困り事や一人暮らしの災害時の不安など。元気な時は気にならなかったことが、年を取ると現実になる。現在、コロナ下で近所付き合いも難しい。もし、自分がそのようになったら、誰が助けに来てくれる？**地域の困り事は地域で解決する対応が自治会長を中心に考えることが急務と考える。**



湯田地区民生委員
本田敏光氏



西部指定居宅支援
事業所ケアマネジャー
久保優賢氏

介護保険のケアマネージャとして、サービス利用の調整や主治医との連携、介護状況の把握等に努めている。利用者の方の大半は、介護保険を利用するようになり、地域の関係性が希薄化してきている。周りの住民は介護保険で何もかもカバーできると勘違いしている方も多い。訪問介護（ヘルパー）はできることが限られており、何とかできないかと相談を受けてもなかなか対応は難しい。当事者も住民も安心して地域で過ごしたい気持ちは一緒。人間、いつどうなるかわからない。**困り事、生活課題が出た時に、気兼ねなく解決できる地域づくり、お互いさまの気持ちで、思いやりの中から地域間の交流ができると良い。**

有償ボランティア「小さな幸せ応援団」の団長。活動を始めて4年目。市内全域65歳以上の独居、高齢者世帯の方で、生活に支障のある方が対象。団員24名。支援者65名。昨年度は300件程の支援。内容は、美化センターへのゴミ出し、草取り、草刈り、買い物、室内清掃が多く、その他、みかん契り、コインランドリーの洗濯、精米、布団の出し入れ等の依頼がある。1時間程度の活動。気兼ねなく相談してもらうために謝礼として1時間一人500円の有償ボランティア。団員には80代の方も多い。**無理のない範囲での活動。**今年に入り60代、30代の若い方の団員加入もあり、ありがたい。



有償ボランティア
「小さな幸せ応援団」
木野幸典氏

意見交換



栗下 ）中上江地区の今後の取り組みの状況は？

池田 ）隣近所の方の人情だけに期待しては無理。これなら誰でも頼めるというものが必要ではないか？
ネーミング「孫の手クラブ」(仮称)。孫に気軽に頼む気持ちで。今年6月回覧板で興味のある人を募集。現在1回会合。近日2回目の会合予定。メンバーに40代、50代の若い人もいる。今後立ち上げに向けて、細かい打合せを行っていく予定。自分もやがてそういう年齢。身体が動けなくなる、**最終的に自分に返ってくる。**

本田 ）自治会長と言えども、このように実際の行動に移せるのは容易ではない。きっかけは？

池田 ）自分が人一倍ボランティア意識が高いわけではない。一番必要と思ったきっかけは、4、5年前の台風。一人暮らしの方が心配で巡回。行ってみると何も対策をしていない。これはいけない！どうする？今後、どんどん増えてくると感じた。蛍光灯がチカチカしていてもそのまま。プロに頼むほどのことでもない。そのような家を周りも気づいていながら手を出せずにいる。社協の後押しがあればできると思った。**きっかけと行動が大切。**

栗下 ）ケアマネとして、地域にお願いしたいことは？

久保 ）支援している人が家で過ごしている時、もし一人暮らしであつたら不安なことが多い。そんな時、誰かしら訪問して声かけしてもらったり、認知症の方が動き回り帰り道がわからなくなっている時、やさしく声かけがあると安心。**何気ない気兼ねない声かけ一言が安心感につながる。**

栗下 ）小さな幸せ応援団は有志の集まり。継続できる秘訣は？

木野 ）**これまで続けてこられたのも志が同じ。**3年前、養成講座を受けてこのまま終わるのはもったいない、活動をしていこうということになり、有志の団体を立ち上げた。基本、無理をしないこと。基本2人組で行動する。活動への負担感の軽減と何かあった時連絡ができる体制。**「お互い様」という団員皆さんの同じ気持ちが繋がっている。**

栗下 ）このような取り組みがもっと若い世代に繋ぐにはどうしたらよい？

中村 ）我が地区でも9名全員が70代以上。60代はまだ働いている。なかなか応援をもらうのは難しい。我が地区には消防団を中心にほたる保存会がある。そこに、**できない時は応援してほしいと協力を依頼している。****若い人に助け合いの意識を高めるためには若い人に意見を求める必要がある。**

栗下 ）助け合い活動の原動力は？

上野 ）なんでもやろ会、総勢32名であるが、実際動けるのは3分の2程度。40代が3、4名。子育て世代の方は、**気持ちはあるが時間がない。**主になれない。しかし、**時間さえ合えば力になる。**正式メンバーに入れなくても手伝いはもらえる。**そのような感じで誘えば気持ちよく一緒に手伝ってくれる。**

中本 ）本日の推進大会はとても参考になった。えびの市は昔から地域福祉は県内でも先進地。本日、この大会にこれだけの方が来られていることがその証拠。社協と地域関連の方々との連携ができています。**現在、自治会に助け合いの仕組みはなくても、近所付き合いで充分助け合いができています。今あることから仕組みにしていけばよいと思う。**